

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか</b>					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	心理臨床センターは、明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒後教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士を育成する教育活動を行っている。また同時に、臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査研究を行って社会貢献を果たすことにより、本大学の教育・研究に貢献することを目的としている。なお、心理臨床センター規程において理念・目的を定めている。				
<b>(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	相談活動や院生の実習実績については、大学から選任された教員によって構成されている運営委員会において定期的に報告と審議が行われており、厳密な検証がなされている。	センターの運営について、他学部教員などの多角的見地からの審議を行うことで、客観的な検証が行われている。	運営委員は2年任期であり、毎回交代時には検証の根拠となる組織や活動についての基本的な理解を求めることが必要となる。		2016年度は運営委員の交代があり、センターの組織や活動について理解が進むよう、資料などの工夫を行い、運営委員会やそれ以外の機会にも配布して説明していく。

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか</b>					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。  ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の学生の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、修了生を対象とした卒業教育にも力をいれ、現場で活躍できる臨床心理士の育成を図っている。 運営組織としては、センター長、副センター長2名、学内運営委員15名によって運営委員会が組織されている。センターの実務的運営については、センター長、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修担当の専任教員）7名、専門相談員5名（専任職員1名、特別嘱託4名）によって構成される担当者会議で検討されている。 心理臨床センターの事務は、文学部事務室が担当し、専任の相談員1名でも運営事務を担っている。心理臨床センター専従として、短期嘱託職員が3名（延べ1名分）がセンター来談者の受付事務を担当している。				
<b>(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか</b>					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。  ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	担当者会議、運営委員会において教育研究組織の適切性について検討を行っている。	相談の実務に携わる担当者によって作成されたセンターの運営案について、他学部教員で構成された運営委員会に置いて多角的見地からの審議を行うことで、客観的な検証が行うことができている。	運営委員は2年任期であり、毎回交代時には検証の根拠となる組織や活動についての基本的な理解を求めることが必要となる。		2016年度は運営委員の交代があり、センターの組織や活動について理解が進むよう、資料などの工夫を行い、運営委員会やそれ以外の機会にも配布して説明していく。

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。【なし～400字程度】	<p>文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修前期博士課程、後期博士課程の学生の臨床心理実習については、学生が研修相談員として専門相談員の初回面接の陪席、専門相談員の指導を受けながら実際の個人心理面接及び心理検査の担当を行っている。</p> <p>2015年度は、夏季休暇中に改修工事が行われ、面接室1、検査室1、研修室が増設された。この工事のため、6月1日～9月23日は新規相談の受付を休止し、新規来談者は前年度よりも38件減少した。このため、新規相談受理面接の陪席は、例年大学院入学後の6月より開始されるが、2015年度は秋学期からの開始となり、年間回数も50回と少なかった。また、工事や移転作業による休室も18日もあったため、センター全体の個人心理面接回数の減少も懸念されたが、工事終了後には、新規相談申込は順調に回復し、面接室の増室もあって個人心理面接の年間回数は前年度よりも95回増加の3498回行うことができた。それに伴い学生の面接担当数も確保することができ、さらには学生が担当する承諾を得られた割合も前年度の25%から35%に増加したため、心理面接(表2)や心理検査の学生の担当数は前年度よりも多い1,033回行うことができた。これにより、工事期間による影響を最小限に留めて十分な研修を行うことができ、臨床心理実習の場として大学院教育に貢献したといえる。</p> <p>さらに、研修室の増設により、学生がカンファレンスや実習記録を行う十分なスペースが整備され、学生の研修環境の改善を図ることができた。</p> <p>これまでの臨床実習の成果については、学生が修了後に受験する臨床心理士資格試験に於いて、2015年度は受験者10名全員が合格と全国平均を大きく上回った合格率となり(全国合格率62%)、これまでに修了生81名全員が資格を取得していることから裏付けられている(表4)。さらには、修了生も研修相談員として受け入れたり、修了生を対象とした事例検討会を行うなど、卒業教育にも力を注いでいる。</p> <p>この中で、2008年より修了生の臨床心理士合格者による「明治大学臨床心理士会」が発足し、その事務局をセンターに置くことにより、臨床現場で活躍する修了生の知見をセンターの相談活動や教育活動に還元したり、現役の学生との交流を図ることができている。さらに、明治大学臨床心理士会はこれまで年一回の会員を対象とした研修会を行ってきたが、2016年3月にセンターとの共催により外部の専門家を対象とした100名を超える参加者を得る研修会を開催し、校友と大学との連携を深めることができた。</p> <p>さらに、2015年12月に結ばれた順天堂大学との包括協定に基づき、順天堂大学精神医学教室との連携が2016年度より開始した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談活動の充実により、学生の臨床実習を充実させることができた。</li> <li>・研修室が増設されたことにより、学生が研修を行う環境を整備することができた。また、面接室及び検査室の増設は学生の実習の機会を拡充にもつながった。</li> <li>・心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実により、2015年度は臨床心理士資格試験において受験者全員が合格し、これまでの修了生全員(81名)全員が資格を取得するという高い実績をあげることができた(全国平均合格率62%)。</li> <li>・学生の臨床心理実習の充実とその成果は大学院志願者の重要な選択要因となり、志願者は毎年12～14倍となっている。</li> <li>・修了生による「明治大学臨床心理士会」との共催による研修会の開催は、現役の学生と校友の交流、卒業教育、社会貢献の意味で有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年度は改修工事の影響で新規相談の受付を休止したため新規来談者数、学生の陪席数ともに減少した。</li> <li>・研修室をより有効に活用できるよう、研修の機会を増やしていくための計画について検討する必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修工事終了後新規申込数は順調に回復し、面接室が増設されたこともあり、陪席数・面接数ともに2016年度は増加することが見込まれ、個別面接回数は目標の3,600回を達成できる見込みである。</li> <li>・研修室を活用した学生の自主的な勉強会が2015年度末より試行的に始まり、2016年度は定期的な勉強会が計画されている。さらに、さまざまな技法に関する研修会がそれぞれの専門の教員や相談員を中心に行っていく予定である。</li> <li>・順天堂大学との包括協定に基づき、順天堂大学精神医学教室との連携を開始し、双方の事例検討会への相互参加や、学生の外部実習について試行を重ねながら連携計画を作成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標回数3,600回を達成させた後は、2016年度に始まった研修会などを基に、ケース検討体制(院生指導・カンファレンス)の強化を行い、相談技術の水準を向上させ、よりよい教育活動及び相談活動を目指す。</li> <li>・明治大学臨床心理士会と連携した研修会等を継続的なものにしていく。</li> <li>・順天堂大学と、学生の外部実習や共同研究も視野に入れた連携を進展させ、学生が医学的な見地からの教育も受けられるようにしていく。</li> </ul>

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか</b>					
a ●方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	<p>センターの心理相談を行うための環境としては、2015年度夏季休暇中に行われた改修工事により心理面接室1室、心理検査専用の部屋1室が増設され、心理面接室が4室、プレイルームが2室、心理検査室が1室となった。</p> <p>これらの部屋は、心理相談を行うに相応しい環境が整備されている。これまでの相談者の希望が多い曜日や時間帯は面接室不足のために申込を断らざるを得なかったり、面接室を心理検査室として代用せざるをえないという問題があったが、これらは面接室・検査室の増設により解決された。</p> <p>さらに、改修工事により研修室が増設され、これまで学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりするスペースが不足し、スタッフルームを定員超過ながら使用して面接などの業務への支障という課題が解決され、院生の研修に適した環境が整備された。</p> <p>しかし、個人面接以外にセンターの活動として行われている集団療法を行うための専用の部屋がなく、毎回会議室などを借りて集団療法を行っている。これについては、C地区跡地整備計画の中で検討され、2017年度に集団療法室設置が予定されることにより改善が見込まれている。</p> <p>プレイルーム内の遊具などにより、来談している子どもが怪我をすることがないように、柱などへのマットの設置をおこない、遊具の点検などを行っている。また、プレイルームや面接室については、大学による清掃に加え、使用後に定期的に職員や学生が清掃を行っている。</p> <p>さらに、センターの来談者の中には、衝動のコントロールが未熟な者もあり、面接中に激こうしたり、暴力的になる可能性がある者もいる。そこで、職員や学生の安全のため受付及び各面接室の防犯ブザー及び各部屋からの連絡を受付で確認するための電光ボードを受付に設置している。</p>	面接室、プレイルームは心理相談・治療を行うための条件が整っており、学生の臨床実習に役立っている。	集団療法を行う専用の施設については、2017年度に工事が予定されているが、現在の相談業務は課題を抱えながら行われている状態のため、一日も早い実現が望まれる。		<p>集団療法を行うための専用の部屋の整備が一日も早く実現するよう担当部署と調整する。</p> <p>拡張工事に向け、設備を有効に生かすよう集団療法など事業の展開を計画する。</p>
<b>(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか</b>					
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ●教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	<p>センターが持つ学生の心理臨床訓練の場としての機能を果たすために、臨床心理学専修の学生がセンターで研修を受けている。学生が臨床実習記録を作成したり、カンファレンスを行ったりする研修室の設置は、日本臨床心理士資格認定協会が一種指定校の条件として求めているものである。2015年度改修工事により院生研修室が増設され、院生の研修に適した環境が整備された。また、研修室での個人情報の取り扱いや使用時間などについて、担当者鍵において内規を定め、学生にも周知を図った。</p> <p>また、クライアント面接や心理検査を担当することは学生にとって重要な臨床実習となっているが、面接室や検査室が増設されたことにより、今後院生の臨床実習に十分な担当数の確保のためのセンター全体の面接数・検査数の増加が見込まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修室の使用について内規を定め、学生に周知を図り、それに基づいた使用がなされている。</li> <li>・研修室が設置されたことにより、研修室を活用した学生の自主的な運営による研修会が2015年度末より試行的に始まった。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修室を活用した学生の自主的な運営による研修会は、2016年度は定期的な会としてが計画されている。</li> <li>・さらに、さまざまな技法に関する研修会をそれぞれの専門の教員や相談員を中心に行っていく予定である。</li> </ul>

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	
				「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか</b>					
a ○心理臨床センターの社会サービス活動、社会への還元状況 ※加えて、受講者アンケートや外部評価委員会による評価など検証の仕組みがあれば追記してください。根拠資料を検討ください。	<p>心理臨床センターは、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修の臨床心理実習機関として臨床心理士養成のための実地訓練を行うとともに、臨床心理学的諸問題にかかわる相談窓口・援助活動によって社会貢献を図っている。</p> <p>センターにおける心理相談は、兼任相談員（大学院文学研究科臨床人間学専攻専任教員）7名、専門相談員5名（専任職員1名、特別嘱託4名）によって行われ、相談・援助活動においては、個人心理面接回数が表1のように年々増加し、2015年度は改修工事のため、新規相談受付休止期間（6月1日～9月23日）や工事や移転のための休室期間（計18日）があったにもかかわらず、面接回数は3,498回と前年度より増加した。それにより相談料収入も増え、2015年度は11,750,000円の収入となり、地域に開かれた心理相談機関として大学の持つ臨床心理学の知見を社会に還元し、社会貢献を図っているといえる。面接回数が増加した背景には、近隣の大学病院を始めとした医療機関や外部の専門機関からの紹介で訪れる来談者が多い点が挙げられる。これは、センターの社会的な認知が進んでいることを示し、さらには同一機関から多くの来談者の紹介を受けることが多いことは、外部機関からの評価の高さを示し、センターの社会的な認知、地域におけるネットワークへの位置づけが進んでいるといえる。</p> <p>さらに、2015年12月に結ばれた順天堂大学大学との包括協定に基づき、順天堂大学精神医学教室との連携が2016年度より開始される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接回数が3,498回と増加したことから（表1）、地域に開かれた心理相談機関として根ざしてきており、社会貢献を果たしている。</li> <li>・外部の専門機関からの紹介が多く、同一機関から繰り返しの紹介も多いことから、外部専門機関に心理臨床センターの存在が認知され、評価されているといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順天堂大学精神医学教室との連携について、実務者同士が連携の方策について検討を重ねていく必要がある。</li> </ul>	<p>順天堂大学との包括協定に基づき、順天堂大学精神医学教室との連携を開始し、双方の事例検討会への相互参加や、学生の外部実習について試行を重ねながら、ネットワークを構築していく。</p>	<p>順天堂大学と、学生の外部実習や共同研究も視野に入れて連携を発展させていき、医学的な見地も含んだ相談活動を行い、社会貢献を目指す。</p>
	<p>個別の相談だけでなく、集団療法として小学校、中学、高校教員対象の2グループ、外部の心理援助職対象のサイコドラマスクール、児童福祉施設職員対象の2グループを実施している（表6）。学校教員のメンタルヘルスは近年たいへん悪化しており、教員対象のサポートグループは大きな意味を持っている。さらに、児童福祉施設職員への援助は、近年児童虐待等の問題が大きくなる中で、その支援体制づくりの整備や支援者のスキルアップに寄与する取り組みを行うことは社会的課題に対する重要な取り組みと言える。このように、一般の相談者の相談のみならず、臨床心理学的知見を外部の専門家に対して還元していくことは、心理臨床センターの目的の一つである社会貢献に資する取り組みである。</p> <p>さらに、心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実ぶりは大学院志願者の重要な選択要因となり、志願者は毎年12～14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。</p> <p>加えて、修了生の臨床心理士合格者による「明治大学臨床心理士会」はこれまで年一回の会員を対象とした研修会を行ってきたが、2016年3月にセンターとの共催により外部の専門家を対象とした研修会を開催し、校友と共に社会貢献に資する取り組みを行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的課題に取り組む集団療法を実施している。</li> <li>・学生の臨床心理実習の充実とその成果は大学院志願者の重要な選択要因となり、志願者は毎年12～14倍となっている。</li> <li>・「明治大学臨床心理士会」との共催による研修会は、100名を超える参加者を得ることができ、校友との協力体制を強化を図ると共に、社会貢献に資することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団療法を行う専用の施設がなく、これについては、2017年度に工事が予定されているが、現在の相談業務は課題を抱えながら行われている状態のため、一日も早い実現が望まれる。</li> <li>・継続的に講演会などを企画していくには、人員や予算が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団療法を行うための専用の部屋の整備が一日も早く実現するよう担当部署と調整する。</li> <li>・セミナーの開催に向けて、人員や予算を年度計画で策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団療法室設置後は、設備を有効に生かすよう集団療法など事業の展開を計画する。</li> <li>・明治大学臨床心理士会との連携を深めて、地域を対象とした継続的なセミナーを計画していく。</li> </ul>

# 2015年度 心理臨床センター 自己点検・評価報告書

## 基準 10 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画										
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述								
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>														
<p><b>(1) 点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b></p>														
<p>a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】</p>	<p>全学的な自己点検・自己評価のシステムに基づいて、多様な項目について自己点検・自己評価を行っている。2004年度までは、心理臨床センターは文学部の枠の中で行っていたが、2005年度からは独立に行うことになった。自己点検・評価の項目について担当者会議で協議を行い、その内容について運営委員会において検討を行っている。その改善策についても検討し、年度計画等に活かすことで、自己点検・評価を改革・改善につなげるシステムを確立している。</p> <p>さらに、大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修は日本臨床心理士認定協会指定大学院（第1種）であり、センターはその臨床実習機関として位置づけられており、認定協会により6年ごとに指定継続審査及び3年ごとに実地視察が行われている。2010年に実地視察、2012年度には指定継続検査が行われたが、この評価も学内の検討を促す形で活用されている。</p> <p>評価指標の一つに「同一の関係機関(病院等)から紹介される来談者の率」を他機関(利用者)からの信頼度・評価指標として、相談担当者会議において年度ごとに再紹介率の増減を基に現状分析や改善点の検討を行っている(表5)。</p> <p>※① 評価に関する委員会等の設置(名称,メンバー,年間開催回数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員会等の名称</th> <th>主なメンバー,人数</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心理臨床センター自己点検・評価委員会</td> <td>担当者会議が兼務している</td> <td>隔週月曜日</td> </tr> <tr> <td>外部評価委員会</td> <td>運営委員会が兼務している</td> <td>2015年6月16日,11月27日</td> </tr> </tbody> </table>	委員会等の名称	主なメンバー,人数	開催日	心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日	外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2015年6月16日,11月27日				
委員会等の名称	主なメンバー,人数	開催日												
心理臨床センター自己点検・評価委員会	担当者会議が兼務している	隔週月曜日												
外部評価委員会	運営委員会が兼務している	2015年6月16日,11月27日												
<p><b>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</b></p>														
<p>a ●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫</p> <p>&lt;参考:以下の事項に関して、関連するものについて記述する&gt;</p> <p>①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>2014年度自己点検・評価報告書からは、専門的な知識をもつ職員の補充、院生の研修環境、社会連携などの課題が担当者会議で協議され、運営委員会検討を行い報告書をまとめた。運営委員会では、これら課題に対して、人員の充実、集団療法室の整備、セミナーの実施、のように2016年度長・中期計画、単年度計画に記載し、計画的に改善を図ることにした。</p> <p>この他、心理臨床センターの活動状況は、来談者数、最終数及び最終時の状態(改善につながったか否か)によって客観的に評価することが可能であり、来談者数については様々な機会に学内外に公表している。また、さらに詳しいデータを毎年度刊行される紀要に掲載している。また、来談者に評価を求めることは、心理相談の性質上困難なため実施していない。</p> <p>心理臨床センターに来談者を紹介する精神科クリニックなどの他機関が次々と現れていることも外部からの高い評価捉えることができ、社会的な認知、地域におけるネットワークへの位置づけが次第に進んでいる。心理臨床センターにおける学生の臨床心理実習の充実や志願者の大学院選択の際の重要な要因となり、志願者は毎年12~14倍となっている。社会的貢献の点でも、大学教育的観点からも、センターは本学の特色ある機関と認知されつつある。</p>	<p>センターの活動状況は、来談者数など、客観的な評価しやすいデータの形で学事記録やセンター紀要において公表されている。</p> <p>・日本臨床心理士認定協会による2010年に実地視察ではA評価と高い評価を得たが、同時に改善点も指摘された。それをもとに、年度計画等で改善を図り、2015年度に院生研修室を設置することができ、外部評価における指摘が、センターの実情に対する大学の理解を促進した。</p>	<p>・今後予定されている日本臨床心理士認定協会による実地視察に向け、前回指摘の改善点のうちまだ改善されていない「来談者の導線」について改善する必要がある。</p>	<p>・来談者の導線について、年度計画で策定すると同時に関係部署と調整して改善していく。</p>										

**表1 個人心理面接 年間面接回数**

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
面接回数	250	1405	1823	2023	2532	2456

年度	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
面接回数	2417	2652	2811	3014	3403	3498

**表2 大学院生臨床実習状況**

2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
陪席	担当	陪席	担当	陪席	担当	陪席	陪席	担当	担当
18	183	53	377	35	317	63	18	183	744

2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
陪席	担当										
32	626	48	761	62	827	58	828	62	862	50	1033

**表3 相談料収入**

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
相談料	976,450	4,852,250	6,872,000	7,037,350	8,683,906	8,064,900

年度	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
相談料	8,418,250	8,764,850	9,567,850	10,401,000	11,375,060	11,750,000

**表4 臨床心理士資格試験合格者数(2007年度～2015年度)**

年度	修了者数	受験者数	合格者数	合格率	合格率全国平均
2007	11	11	9	82%	69%
2008	9	11	11	100%	66%
2009	9	9	7	78%	62%
2010	7	9	9	100%	61%
2011	7	6	5	83%	61%
2012	9	11	11	100%	59%
2013	10	10	9	90%	62%
2014	10	11	10	91%	60%
2015	9	10	10	100%	62%
計	81		81	100%	

**表5 個人面接紹介元**

来談経路	件数	計	
専門機関	医療機関	98	142
	スクールカウンセラー	28	
	福祉関係機関	14	
	その他の機関	2	
知人	知人・家族	32	32
学内	スタッフ	15	20
	学内関係者	5	
広報	ホームページ	53	63
	広告・看板	10	
その他	再来	4	4
総計		261	261

**表6 集団療法 年間参加人数**

年度	2004年	2005年	2006年	2007年
教員サポート・グループ	64	76	70	54
教員コンサルテーション	32	146	117	74
サイコドラマ・グループ			172	189
施設心理職員グループSV				
施設職員コンサルテーション				

年度	2008年	2009年	2010年	2011年
教員サポート・グループ	26	70	68	43
教員コンサルテーション	51	70	68	55
サイコドラマ・グループ	186	242	235	232
施設心理職員グループSV				28
施設職員コンサルテーション				22

年度	2012年	2013年	2014年	2015年
教員サポート・グループ	87	44	34	39
教員コンサルテーション	56	27	26	32
サイコドラマ・グループ	188	266		254
施設心理職員グループSV	70	38	19	27
施設職員コンサルテーション	33	23	35	56